

ふか だ き み こ
深田 貴美子

《いっぽいっぽ通信》

『武蔵野』—は、国木田独歩!

深田貴美子は、独立独歩!



▶▶ 深田貴美子—独立宣言! ◀◀



市議会に与党・野党はいりません。

「分水嶺」を越えた今、すべての人々のために—

8月3日付で、「民主党・無所属クラブ」会派を出ることにしました。
そして、私の原点である「無所属=ひとりの市民」に立ち位置を戻しました。
そもそも私の政治活動の出発点は、PTA活動・青少協・子育て支援等の市民活動が原点です。
同時に、事実関係を冷静に分析し、是々非々を明確にする研究者の視点も大切にしています。

任期満了まで「分水嶺」を越えました。(残り20ヵ月です)

後半戦は、立候補したときにみなさまに「お約束=公約」したことを、出来る限り具体的な形として実現する為に、無用な“みちくさ”や、不要な“ためらい”は捨て去ることにしました。まだまだ力不足・経験不足で未熟な私ではありますが、精一杯走り抜けることをお誓い申し上げます。

もとよりこれまで以上に、厳しい環境になる訳ですが、自ら現場を踏みしめ、コツコツと勉強と体験を重ねることをモットーに、思い切って伸びやかに活動してまいります。

皆様からは、いや増しての、叱咤激励+支援応援+アドバイスを、どうぞどうぞよろしくお願いいたします。

今、深田ががんばっていること



- ※働く家庭をばっちり応援・・・保育園と保育サービスのあり方勉強会開催中
- ※在宅子育てをしっかりと応援・・・子ども家庭支援センター設置を要求
- ※障がいをもった子どもと家庭をサポート・・・発達障がい児支援サロン「tutti吉祥寺」で毎月第2・第4水曜日に活動中
- ※わくわく楽しい学校教育・・・他区市の先進的な取り組みを視察・改善提案に向け奮闘中
- ※市の財政をしっかりとチェック・・・市民のみなさまと財政勉強会にて修行中
- ※いつまでも元気で、ますます元気で・・・介護と医療の勉強会で修行中
- ※武蔵野市の健康チェック・・・都市再生インフラ(上下水道・電気・ガス・通信・道路・交通・土地等)の課題を徹底的に視察・学習中
- ※武蔵野プレイス知的創造空間って何だ?・・・生涯学習と市民参加のまちづくりを目指し、市民のみなさまと勉強中

深田貴美子の今月のしゃべり場!

主催:いっぽいっぽの会

今月のお題
「いよいよ武蔵野市長選!武蔵野市の課題はこれ!」
お気軽にお運びくださいませ。

- 9月25日(金)午後7時より 本町コミュニティセンター
- 9月26日(土)午後7時より 東コミュニティセンター

武蔵野は
深田だ!
独立独歩

いつでもお気軽にご相談ください

電話 090-8025-4457
メール ippo-ippo@fukakimi.net まで

<http://www.fukakimi.net>

独立したのには、「訳」がある。



1. きっかけ … 議会の中には「会派」という不可思議な世界?

1-所属していた「会派」では、定例会派会議・会派視察・調査研究の実施を提言しましたが、行われませんでした。

民間企業では、定例会議が開かれるのは常識です。どちらかという議員の仕事は、個々の裁量にまかされたフレックスタイム的なシフトです。だからこそ、コアタイムを作って、情報共有、意見交換、政策議論の場を作る努力が必要です。

2-市長与党第一党として、市長との政策会議もほとんど開かれませんでした。

そもそも26人の規模の市議会に、与党・野党は必要ありませんが、市長与党というならば、市政運営の意思決定する市長と具体的な政策議論行うことは必須です。

3-議会人事で、「白票」を投じることになりました。

議員は、市民の付託を受けて意思表示することが大切です。議会人事選挙での投票行動は、重要な意思決定であり、「白票」は、意志表明をしない行動になります。

4-賛同できない議会人事に、賛成しなければならない「会派拘束」がありました。

5-「市長与党なのだから、市政の指摘はほどほどにすべきだ」という指示がありました。

耳障りの悪い指摘にこそ、真実が隠されていることがありますよ

ね。義を見てせざるは、勇無きなり。二元代表制は車の車輪。議員の立場を忘れてはいけません。

「そんな青臭いこと、政治なんてそんなもんじゃん」って思いませんか?

こうした目こぼし・積み重ねが今の社会を作ったのではないのでしょうか。

行政は「権力」を持っています。それをチェックするのが議会の「権能」です。だから、いつでも市民に寄り添い、議論を重ね、より良い方向に施政を導く努力が議員には必要です。

2. 沈黙考 … 珍しくしっかり立ち止まって考えてみましたところ…。

9月中旬には、政権交代が実現するでしょう。

民主党は「新しい国のカタチ」を目指し、「地域主権の実現」を宣言しました。政府の役割は外交、防衛、食糧、エネルギーなどの安全保障に限定し、それ以外は地域=自治体の裁量を大きくするとしています。

であるならば、政策決定する市議会の役割は、極めて重いものとなります。

果たして、今の議会は市民の声をしっかりと聴き、市政につなげる政策提言ができているのでしょうか。

3. 不言実行!

だからこそ「議会改革」の第一歩として!

市議会は、条例(まちのルール)と予算(税金の使い方)を決めるところです。だとしたら、議員ひとりひとりが、日々、市民生活に寄り添い、市民の声に耳を傾け、事例調査を重ねるといった「調査・研究・視察」は議員の基本の「基」です。

会派とは、議会内で作る任意の議員集団ですが、こうした基本的活動を踏まえて、市政に政策提言していく集団でなければなりません。また、市民の代表であるならば、「議員平等の原則」から、会派に属さない議員でも機会は均等に扱われなければなりません。ところが、武蔵野市議会では、

「ひとりを会派と認めない」という慣習から、たとえトップ当選した議員でも、会派を組まなければ「予算・決算委員会、特別委員会への参加の権利」は与えられず、討論をしても議会だよりに討論内容も掲載されず、また、「会派に属さない議員」と表記され、例えば、「ザ・いっぼいっぼ」といった所属の名称さえも掲げることが許されていません。

これって、議会制民主主義的にどうなのよって思いませんか? 議員ひとりひとりの活動がしっかりと守られなくて、市民ひとりひとりの声をどう守ることができるのでしょうか?

まずは、ここから議会改革!

— 寄らば大樹の陰よりも…

しがらみにとらわれず、しっかりと市政を質す立場に私は立ちたい。

4. そして、今後に乞うご期待!

「深田貴美子」が取り組むことは— 「支えられ感のあるまちづくり」 を目指します!

ひとりで悩んでいませんか。
じっと我慢していませんか。
とても遠慮していませんか。

ひとりひとりが、かけがえのない大切な存在です。

2050年には、日本の高齢者比率は36.5%で、世界で第1位になるといいます。つまり3人に1人が65歳以上という高齢社会です。だからこそ、高齢者も子どもも、障がいを持っている人も持たない人も、男性も女性も共に認めあって、支え合って、励まし合える安心と希望に満ちた「支えられ感のあるまちづくり」が必要です。

行政は、市民の命と財産を守る「最後のよりどころ」です。その責務を受け止め、必要なひとに、必要なサービスが届くように、しっかりと「市民の声を聴く」市役所づくりを目指します。

なかんずく、税金の使い道を市民にわかりやすく「見える化」していくことも重要です。本当に必要なサービスが、目に見えるかたちで懸命になされているということが伝わると、税金もしっかり活用されているんだなと安心しますよね。

「縮小社会=少子高齢社会」だからこそ、より良く、充実した人生を送るために、子育て・学校教育・生涯学習をより充実させ、今を生きる子どもたちと、20年、30年先の子どもたちの笑顔が輝くまちを市民参加でつくります。

—「まちづくり」は、「人づくり」

★2009年9月定例会から、深田貴美子は「完全無所属」に立ち返り、任期満了まで全力疾走します。

良い施策は、大いに評価し、間違っていることは、しっかりと指摘する。

—これが「議員深田のスタイル」です。



『地方自治の実践は、民主主義の学校であり、民主主義を成功させる最良の保証である』(ジェームズ・ブライス)

—私は、子どもたちに判断できる力(リテラシー)を育てたい。

次号予告

- 武蔵野市の健康チェック!? 動脈・静脈インフラは大丈夫か?
- 本当の市民参加って何? 実現のための条件整備は…
- 「深田スタイル」のこれまでとこれから!